静岡県現代俳句協会会報

No.127

令和２年10月25日発行

星に願いを

東城保子

静岡県現代俳句協会副会長

八月十二日、ペルセウス座流星群が見られると聞き、夜空を見渡した。世界中を騒がしている新型コロナウイルスの収束を祈り、願いを込め流星を見てみようと思った。

今年の盆休みは、家族でも帰省出来ず、夫婦のみの長い連休である。送られて来る俳誌もコロナウイルスを詠まれた句が、眼に留まる。「宇宙」の阿久津明子氏の一句

昼も夜もコロナコロナと蛙かな

テレビで毎日、陽性の人数を知らせ、外出も自粛を求められている。

コロナといふ不確かな日よ心太　保子

前々からの約束で幼馴染とランチタイム。恐ろしくもマスクをしての再会であったが、話に花が咲いた。コロナとは異なるが、私には忘れられない思い出がある。

私達が五年生の頃、町内には十一軒ほどの家があり、子供会の人数は九人であった。その子供会で集まった時の話である。

ヒサエちゃんという二年生の子が会費といって、一円玉を沢山袋に入れて持ってきた。会費は三十円程だったが、みんな貧しさの中でも生きることに必死だった時代である。「あのヒサエちゃん、今頃どうしているかしら。」という話になった。

ヒサエちゃんの家は、大きな菓子問屋で伊豆石の蔵が二つ。店から蔵までトロッコのレールが引かれ、遊びに行くと仕事の合間に乗せてもらった。

蔵の二階に色白の綺麗なお姉さんが、長いこと床に臥せていた。時々遊びに行くと顔を見せてくれたが、ヒサエちゃんは胸の病気だから、二階へ上っては駄目と言った。その蔵には中原淳一の「それいゆ」や少女雑誌が積まれてあり、それを目当てに入っては楽しんだと思う。しかし、直ぐにそのお姉さんは亡くなり、お父さんも後を追うように世を去った。ヒサエちゃんの家は、問屋を止め、お母さんが駄菓子と雑貨を商って生計を立てていたようだ。その内、お母さんも同じ蔵の中で亡くなったとか……。ヒサエちゃんは根方の親戚へ、ランドセルを肩に背負い、引き取られて行ったのを記憶している。

あの頃は胸を患うと今のコロナと同じで、近所との交流も絶たれ、子供達はその家の前を通る時は口を押さえ駈け出したものだ。大人の噂を耳に子供は子供なりにうつる病気と恐れての行動だったと思うが、子供会のお菓子も他の店で買ってきたことを思い出すと、切なさが込み上げてきて心が今でも痛む。

コロナとヒサエちゃんが、どうして結びついたのか分からないが、一家の中に感染者が出ると、他人はとやかく中傷する。怖い世の中である。一日も早い収束を、願いを込めて星に祈りたい。

令和二年度

静岡県現代俳句協会 俳句大賞表彰式・俳句大会

令和二年九月二十七日（日）
於　静岡市　もくせい会館

新型コロナウイルスの感染拡大が止まらない中、三密を避けながら、静岡県現代俳句協会の第十一回俳句大賞表彰式と令和二年度俳句大会が行われた。

久々顔を合わせた会員の面々は笑顔にあふれ、「九月二十七日はぜひとも皆で集いたいと思ってきた。」という滝浪会長の言葉からは強い責任感や熱意が感じられた。

短時間で内容の濃い会合であったが、まず、第十一回俳句大賞の表彰式から始められた。滝浪武会長から選考経過が述べられ、入賞者発表、表彰、大賞受賞者の花房なお氏の言葉、秋本惠美子・鈴木あさ子・滝浪武各選考委員による選評の後、記念撮影が行われた。（作品・選評の詳細は４・５Ｐ、別誌作品集を参照ください。）

俳句大会は、時間短縮のため事前に郵送で選句が行われ、萩山事務局長が集計して、結果一覧は作品集にまとめられてあった。特別選者の東城保子・つげ葉子・金子徹の三氏から講評があり、成績発表、表彰、滝浪会長による総評と進み、秋本副会長による閉会の挨拶で会は閉じられた。

参加者	三十二名
投句数	百四十句
大会出席者	二十二名

俳句大会　表彰作品

協会賞（得点９）
密なるも無言つらぬく蟻の列　加用　富夫

優秀賞（得点６）
実梅捥ぐ父母なき生家に風を入れ　田中由美子

優秀賞（得点６）
香水を強く憂き世を闊歩せり　花房　なお

秀作（得点４）
古茶を汲むもはや自粛に慣らさるる　秋本惠美子

秀作（得点４）
一病がむしろ生甲斐石蕗明り　北邑あぶみ

秀作（得点４）
白障子しんと運命のようなもの　北邑あぶみ

秀作（得点４）
父の日の胡坐かいてる鬼瓦　滝浪　武

秀作（得点４）
聴き役となる山国の涼があり　滝浪　武

秀作（得点４）
髪しめりくる乱調の蟬しぐれ　滝浪　武

秀作（得点５）
駅までの点字ブロック鑑真忌　東城　保子

秀　作（得点４）
修羅ひとつ蛍袋に封じけり　戸塚　きゑ

秀　作（得点４）
マスクの眼新任教師と一年生　永井千恵子

秀　作（得点５）
春炬燵父の背中のひとり言　永井千恵子

秀　作（得点４）
ちちろ虫明日は手放す生家跡　永井千恵子

秀　作（得点４）
敗戦日テイクアウトのハンバーガー　松下　允子

秀　作（得点４）
千里来し蝶に応える藤袴　宮下　艶子

秀　作（得点４）
流灯をそっと押し出す漢かな　宮下　艶子

秀　作（得点４）
雪解水ぶつかってぶつかって海　渡邊　弘美

特別選者賞

金子　徹　特選
蓮浮葉治療にあたる女医の手よ　喜多　周子

滝浪　武　特選
白障子しんと運命のようなもの　北邑あぶみ

東城　保子　特選
父の日の胡坐かいてる鬼瓦　滝浪　武

つげ　葉子　特選
借物の時間の残り銀河濃し　貫名ともみ

植田　密　特選
香水を強く憂き世を闊歩せり　花房　なお

中部文学散歩　中止のお知らせ

駿府城公園吟行ということで、令和二年十一月一日（日）を予定日として計画を進めてまいりました中部文学散歩につきましては、新型コロナウイルスの収束がいまだ見られない状況であるため、まことに残念でありますが、中止といたします。

全員で吟行、句会のできる日が一日も早く来ることを切に願っております。皆様、健康に留意されてお元気にお過ごしください。

第十一回　静岡県現代俳句大賞　入賞作品

大賞　ニッポン　花房　なお

柏餅剥くや太平洋平ら
鳥の日のぼくはニッポンしか知らぬ
打ち損ず昭和平成令和の蚊
新緑や振り塩尖るゆで卵
助手席の蠅失せて真っ直ぐな道
万緑といふ戦艦の中に入る
脚二本立て短夜の参鶏湯（サムゲタン）
紙魚走る絶滅危惧語絶滅語
大の字で地球を押さへつけ昼寝
梅雨暗の路地の奥よりイーグルス

准賞　命をおもふ時　越川　都

声のしたやう涅槃図へ歩み寄る
ホスピスのナースと二人夕桜
伐折羅の喝万朶の花をこぼしけり
独りなり桜吹雪の渦の中
遺句集の中のつぶやき花の頃
藤棚にあらたなる風来たりけり
葉桜の雨や心に師の言葉
風にのりあの世この世と黒揚羽
青田へと葬りの鉦を二度鳴らす
妊りて深き寝息や新樹の夜

准賞　自存の範　加用　富夫

独立独歩いただきの山ざくら
コロナ禍にさくら気魄を失はず
落椿女傑の魂のごとく映ゆ
花は葉に再生の意気きはだちて
天性の自制に徹す蝸牛
養殖の螢礼意の火を点す
一斉に黄泉国より曼珠沙華
眼前に自存の範の冬木立
凍滝の水に不動の覚悟かな
コロナ禍のレクイエムなる虎落笛

奨励賞　デカメロン抄　尾内　以太

尾根裏へとどまる気球しじみ汁
風に消え風にあらわれ犬ふぐり
霾ればかたむく豪華客船よ
流氷の在宅勤務から帰る
しまうまのしまは交わる春嵐
太陽は色をうしなう春の風邪
印を捺す孕雀の浮力にて
肺の海岸を浸食する卯波
遠山のパソコン動く代田かな
水底を影のよこぎる花は葉に

奨励賞　再生　渡邊　弘美

真ん中は神の空席告知祭
駅頭で説く世界の終わり万愚節
ネオン消え人消え春の星満ちる
裸婦像の乳房のあたり桜舞う
薔薇の香と見えないものに惑う昼
鳥葬の民思う日の大南風
黴拭う机の螺子に雄と雌
夏空やゆっくり狂う花時計
椎若葉木の瘤に宿る再生
素麺水に放つ心ゆるめるのも言葉

奨励賞　いのち

原　百合子

蛇穴を出づ帰還困難地域
雑踏をさまよふてゐる子かまきり
殻透きて旅の途中のかたつむり
まくなぎが人のかたちでやつてくる
原発へ迷ひ込んだる黒揚羽
透明な目高のいのち浮かびくる
たましひが浮遊してをり蛍の夜
テロ続くくるりくるりと蜥蜴の尾
哀しみの深くなりゆく蟬の穴
乾びたる海星を跨ぎ墓参かな

奨励賞　人生の微分積分

望月　富子

秒針の微分積分六月十日
高熱の眼(まなこ)を射抜く初夏(はつなつ)よ
点滴が天敵を撃つ夏病棟
高熱との闘い三日青嵐
眠られぬ夜の病棟遠蛙
思い出は渦潮のごと浮いてこい
病室のベッドは寝棺木下闇
退院のうなじにタッチ青葉風
初夏(はつなつ)は少年のアキレス腱
人生の第三ステージ新樹光

総評

選考委員長　滝浪　武

静岡県現代俳句大賞は二〇一〇年に誕生して今回は十一回目をかぞえる。今年度は三十七編の作品ということで、近年にない多数の応募を得ることができた。応募作品は、一編一編がそれぞれの作者のそれぞれの想いをしっかり刻み付けたものであり、選考していくなかで、その重みをしっかりと感じとることができた。選考委員は、現代俳句協会役員二名、静岡県現代俳句協会役員四名の計六名である。選考のプロセスを述べると、応募作品三十七編についてまず第一次選考を行って、この中から十八編をノミネート作品とした。この十八編を最終選考の対象として、この中から、選考委員それぞれが、七編ずつを一位から七位までの順位を付けて選抜した。それぞれの順位に配点を付しこれに従って集計したところで、その得点の上位から受賞者を決定したものである。「現代俳句」は間口が広い。一編十句というまとまりをどのように生かすかということとか、作者の独自性の存否が選考の切り口となり、また、俳句の方向性についても選考委員の間で意見が分かれる場面もあった。こうした意見を総合した結果、今年の静岡県現代俳句大賞は、花房なお氏の「ニッポン」に決定した。選考委員全員が、最終選考の七句の中に入れており、その独自性と骨太なアプローチは魅力的であった。准賞は、越川都氏の「命をおもふ時」と加用富夫氏の「自存の範」の二作品とした。奨励賞は、尾内以太氏「デカメロン抄」と渡邊弘美氏「再生」および望月富子氏「人生の微分積分」と原百合子氏「いのち」の四編とした。いずれも、十句一編のテーマの通底がしっかりとしており、そこに一つの世界を感じた。日常の中にあることは誰でも目に触れることであるが、そこに独自性を入れ込むためには、自身の主観を客観視することが必要であろう。思いがけない角度から事物をみつめてみるとか、命のある言葉を探したり、あるいはその景色・状況を踏まえて言葉の飛躍をはたすことが肝要である。現代俳句は、その方向性を持って、はじめて大きな共感力を手中にすることになろう。

今回の「静岡県現代俳句大賞」に作品を応募された方々にあらためて敬意を表したい。

諸家近詠

海からの道

袋井市　永井千恵子

一本は青年の顔夏木立
たかぶりの海からの道大夕焼
砂丘痩せて浜昼顔の真っ盛り

夏帽子

伊東市　野口　清美

雨強くなるらし尺取いそげいそげ
無意識がただよっている大水母
夏帽子夫の残した月日かな

夏　野

湖西市　疋田　敏行

ドローンの眼夏野のなつを見失う
パソコンのごみ箱漁る夏野原
夏野果てカゴメケチャップ搾りきる

大海原

牧之原市　藤　みどり

月光の大海原によこたわる
野分晴えんぴつかんでふりむいて
天高し手足わらわら生きていし

出兵橋

浜松市　村松きくゑ

万葉の春風のいろ草木染
喬師の初志をつらぬく葱坊主
まぼろしや出兵橋を黒揚羽

心　太

富士市　望月　富子

蜩や百年生きる世となりぬ
昭和史の点となりゆく敗戦日
民主化へ圧の一突き心太

慈悲の花

伊東市　森　きくよ

十字切る蕺草の花慈悲の花
菩提寺に久遠の祈り時鳥
黙禱に黄菊の祭壇終戦忌

避難タワー

浜松市　山内　丈

尿パッドなどが西日の小あきなひ
避難タワー急拵への灼け加減
生姜擦るつくづく戦後負うて来し

わが俳句工房（90）
人間のドラマを詠う

富士宮市　風岡　俊子

私は怠惰な単純な女で、諸器官が適当に居眠りしていることが多い。俳句の工房などという洒落た物はない。時折駄句が生まれる。単純に見たまま、心に浮かんだままを詠む。時に五音七音の言葉にこだわる。心が刺激され自然に詠む感覚の時もあれば、物の深層に触れその美しさを感じとり、生きている人間、生命思想を詠いたい時もある。

例えば、大正11年杉田久女作「足袋をつぐノラともならず教師妻」当時「人形の家」のノラは新鮮だったと思う。自由な女の生き方の出来ないもどかしさを詠った久女を想像しただけで楽しい。また、安西冬衛の詩「てふてふが一匹韃靼海峡を渡っていった」の「てふてふ」と「韃靼海峡」の響きの「音」のコントラスト。平仮名と漢字の視覚からくる対比のような構築。言葉を選び立体化した世界の広がりを詠う。私は、一句の中に人間の生きているドラマが感じ取れるような俳句を詠いたい。

一句鑑賞

前号の「諸家近詠」の中から

赤シャツ忌瞼閉じればシャッター音

小嶋　良之

牧之原市　村田　明王

赤シャツが似合うか似合わぬか、答えは神に預ける。

小さな身駆に大きなリュックを背負い、首にはいつもカメラを提げ、句を作らぬ時はシャッターを切っている。花鳥人、世のありとあらゆるものに近づいて行った。

正視されしかも赤シャツで老いてやる

伊丹三樹彦

玄冬がマスクとなって迫ってくる

植田　次男

伊豆の国市　山岸　文明

植田次男氏の掲句「玄冬」は戦前、戦中そして今なお存在する言論・思想の不自由な世の中を表し、「マスク」は邪悪な顔を覆う仮面と考えたい。渡辺白泉の「戦争が廊下の奥に立っていた」と同義の告発の一句ではないか。新型コロナウイルス感染拡大の中、安倍政権与党の無策、愚策に国民の不満が鬱積している。緊急事態に国会は閉会。裏では憲法改悪の企みも。

真に国民に寄り添う優れたリーダーの不在が哀しい。

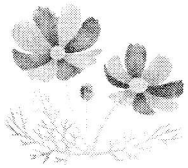
塞いでも塞いでも拡散修羅の冬

金子　徹

浜松市　松本　重延

新型コロナウイルス「コビッド」を詠んだもの。「塞いでも塞いでも」に、その不気味な脅威が示唆されている。

「修羅の冬」は、「春・夏」にまで及び、それはこの国の社会・政治が、救い難い修羅道に陥っていることをも暗示している。正面から「コビッド」を受けとめた大胆な句である。



エッセイ

大海の水

静岡市　宮下　艶子

BSの番組「こころ旅」を楽しみにしている。視聴者からの手紙により、人それぞれの「心の風景」を、自転車の五人組が訪ねる番組である。現在九百五十回を越えていると思うが、その人数の物語が紹介されたことになる。殊に感銘を覚えた手紙がある。戦後、母国へようやく引き揚げて来た一家は父親の実家に身を寄せた。誰しもが生活の苦しい時代であり、受け入れたご実家の御苦労は如何許りであっただろうか。手紙の一部である。人目を避け、夜を待って海水を汲み汁物とした。祖母が子供達に言った。「引揚げ、疎開は恥ずかしくない。正々堂々とせよ。お前達は大海の水を朝晩飲んだ。世界中を取り囲む大海の水を飲んだからには、でっかい人間にならなければいけない。」手紙の主は現在は八十代であろうか。この方の来し方は言わずもがなのことであろう。

ずっと戦後であり続ける事を念ず。

〔事務局より〕

【新入会員】（敬称略）

勝俣とみ子（小山町）令和二年二月
武藤　光江（小山町）令和二年二月
よろしくお願い致します。

【行事報告】

①第十一回静岡県現代俳句大賞表彰式
開催日　令和二年九月二十七日（日）
開催場所　静岡市　もくせい会館
選考　選考委員会による（最終選考委員会　八月三日もくせい会館）
賞　静岡県現代俳句大賞
准賞（二名）奨励賞（四名）

②静岡県現代俳句協会俳句大会
開催日　令和二年九月二十七日（日）
開催場所　静岡市　もくせい会館
参加者　三十二名　投句数　百四十句
出席者　二十二名
選考　投句者全員による紙上互選
賞　静岡県現代俳句協会賞
優秀賞（二名）秀作（十五作品）特別選者賞（五名）

※新型コロナウイルス感染拡大の状況下、大賞表彰式、俳句大会は、同日簡素化し開催致しました。

【行事予定】

①中部文学散歩（中止）
開催日　令和二年十一月一日（日）
吟行地　静岡市（駿府城公園）
句会場　静岡市　もくせい会館

※予定しておりました中部文学散歩は、新型コロナウイルス感染拡大自粛を考慮して、本年は中止と致しました。ご了承ください。

②静岡県現代俳句協会役員会議
開催日時　令和二年十二月五日（土）十三時
開催場所　静岡市「あざれあ」

③静岡県現代俳句協会定期総会
開催日時　令和三年一月三十日（土）
受付　十三時～
開会　十三時三十分
開催場所　静岡市「あざれあ」

※総会後、一句会を開催致します。十一月中旬に往復はがきにてご案内致します。会員皆様のご参加よろしくお願い致します。

編集室からのお願い

次号一二八号は、当初十二月の発行の予定でしたが、中部文学散歩中止により、令和三年三月に発行致します。ご理解ご協力の程よろしくお願い致します。

執筆予告（敬称略）

○巻頭随想　副会長　秋本惠美子
○わが俳句工房　幹事　鈴木　邦子
○エッセイ　幹事　望月　富子
○諸家近詠（全員参加の名簿順）
小野田風馬・恩田侑布子・川村　敬三
牧田　治子・久田　洋子・喜多　周子
藤田　節子・鈴木　潤子・金原直保子
○一句鑑賞　今号（一二七号）の諸家近詠の中から一句選び鑑賞文をお願い致します。
井上　花風・植田しづ子
松山　好江・長谷川玲子
詳細につきましては、別途、該当の方宛てに、令和三年一月頃、連絡させていただきます。

静岡県現代俳句協会会報　第一二七号
発行　令和二年十月二十五日
発行人　滝浪　武
編集人　田中　由美子
事務局　萩山　栄一
〒422-8045　静岡市駿河区西島九一二一一一六
電話・FAX　〇五四一二八一一三三八八